



規格外柿から柿シロップ・ピューレ製造に成功

醤油・味噌醸造販売業。共同研究によって確立した「規格外柿からの効率的柿砂糖製法」を活用し、果実をピューレなどに加工し食品素材として、果実を調味料にして販売を開始した。

業況等の動向について

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

バイオボックス(株)による、福岡県産業・科学技術振興財団研究FS事業「規格外柿からの効率的柿砂糖製法の確立」の研究開発に、右田果樹園と協力し、実験レベルでの製造法を確立。

この間バイオボックスと事業化を協議し、併せて未利用柿を活用した柿シロップ・柿ピューレなどの技術指導と大量生産の検討を行った。

以前から地域資源活用を協議していた紅乙女酒造、栗木商店、右田果樹園と共同出資し、地元農産物を使った付加価値の高いブランド商品の開発・販売を目的とした新法人を設立した。

マーケティング活動としては、商品化したもののテスト販売やアンケートを実施した。また東京では展示会に出展しバイヤーとの商談会にも参加し情報を収集した。

参入して最も成果のあったこと及び最も困難だったこと

展示会等に出展し、バイヤーと商談することでコミュニケーション力、提案力が向上したことや生産方法を模索することで技術力が向上したことである。一方で甘柿は特性上腐敗が速いため安定した品質商品の製造方法の確立が困難であった。また新素材なので、認知度が低く販売先の開拓にも苦労した。

業況等について

業況は飲食店の売上減少、調味料の多様化の影響もありやや不調である。

新規参入事業に関しては、スタートしたばかりなので、食品素材としての認知度が低く、まだ軌道に乗ってない状況のため良いとも悪いとも判断がつかない。ちなみに現在の売上高は400千円となっている。

今後の展望・見通し

今後は拡大方針をとる予定である。2013年度の最終製品売上高目標は現在の3割アップを目指す。

メリット・デメリット

メリットは行政支援のもと他業種と連携し事業に取り組むことで、自社にない発想や企画力が吸収できたことである。

新規事業参入にあたってデメリットは連携事業のため、思いが異なると事業が先に進まなくなることである。

異業種参入時のアドバイス

思いが通じ合う、身の丈にあった連携先と事業に取り組むことが大事である。既存の事業が連携することで新分野・新事業・新商品が生まれる。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

福岡県バイオベンチャー育成事業 20・21年
農商工連携等事業 九州第一号認定

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

新会社、新事業は実績がないことから民間の金融機関から融資が受けられないので、1つの事業を長期支援して欲しい。

会社概要

設立:昭和25年12月

資本金:300万円

従業員数:6名

URL:<http://www.1wakatake.com>